

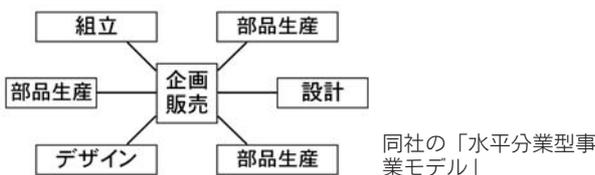
「水平分業型事業モデル」で新製品を開発

株式会社 ヒロ・コーポレーション 奈良県香芝市

平成2年に貿易会社としてスタートした株式会社 ヒロ・コーポレーション（代表取締役社長 向山孝弘氏）は、平成6年に通信事業に参入。特定の地域に集中して出店する戦略で業容を拡大させてきた。現在、関連会社3社を含めた年商が23億円、従業員は105名の企業で、携帯電話のキャリアショップを中心に15の店舗を展開している。

同社は、「従業員・お客様・取引先すべての笑顔のため事業をおこなう」という企業理念を基に従業員教育にも注力し、ショップでの接客の良さに定評がある。また、ソフトバンクの「優良オーナー代理店」にも認定されている。

現在注力しているのが、「今ある携帯電話の関連事業をベースにして何か新しい事業ができないか」という発想のもと、向山社長が考案した「水平分業型」の事業モデルである。近年、世界に誇る日本の「匠の技」が、海外新興国等の安価な商品との価格競争に巻き込まれ、後継者に伝承されずに終焉を迎えようとしている。しかし、「この高い技術はなくさず後世に伝えていかなければならない。そのためには付加価値の付いた商品を作り、他にはないオンリーワンの事業を展開しなければならない」との思いから、この新しい事業モデルを生み出したという。



携帯電話の関連業界は、製品のライフサイクルが非常に速く、次の一手を読む能力と製品の開発・製造のスピードが要求されるが、「企画→設計→生産→組立→販売」と進む従来の「垂直統合型」では、このスピードに対応できない。

「水平分業型の事業モデル」では、核になる企画・販売部門は同社に置き、設計や生産などはそれぞれ得意とする企業が担当する。同社がモデルの中心に位置することで、業界の流れをいち早く察知できるという強みを持つ。さらに、各社が自分の得意分野に特化するため、開発期間が1/4程度で済むこと、技術の粋が結集された「上質な製品」を作ることができるのも大きな魅力だ。そして、このモデルは、小規模企業やこれまでサイクルの速さに付いていけなかった企業でも対応が可能である。現在、県内を中心にした中小・小規模企業数社が関わり、同モデルが動き始めている。

ブランド名は、製造業の復活を意味する「リボン」と永遠・不滅の「エターナリー」を合わせた造語で「リボナリー」。そのコンセプトは「本物志向のお客様に本物を使ってほしい」とのことで、第一弾として、2月中旬に「iPad」用の牛革製ケース、下旬には携帯電話カバーが発売される。なお、携帯電話カバーはアルミ製で、宮大工に伝わる伝統的技術「接木^{つぎぎ}」を利用し、ネジを一切使わずに作られた逸品である。

「水平分業型事業モデル」を使った新製品はこれからも順次開発されていく。同社の次の一手に注目していきたい。（丸尾尚史）



「iPad」用ケース（左）と接木の技術を使った携帯電話カバー（右上）、接木のイメージ（右下）



株式会社 ヒロ・コーポレーション
（代表取締役社長 向山孝弘）

〒639-0225 奈良県香芝市瓦口 2315
香芝木材壺番館ビル3階
TEL: 0745-71-6661 FAX: 0745-71-6665
URL: <http://www.kk-hiro.com>